

2016年度事業報告書

(2016年4月1日～2017年3月31日)

次代を担う子ども達の健全な心身の育成に資するため、芸術へのふれあいの場を創出する音楽会の開催、学校図書館の一層の活性化に向けた姫路市内の小学校へ図書寄贈。市内小・中学生を対象に、参加者の健康増進と競技力向上に貢献することで、地域スポーツの振興を図ることを目的とする実業団陸上選手による陸上教室の開催、また、生涯学習に係る機会の提供を図るため、文化講演会の開催等、地域文化の振興に寄与することを目的として事業を行った。

1. 芸術活動の推進及び援助に関する事業

◇◆ ニュー・イヤール・コンサートの主催 ◇◆

- ①運営費用 1,070千円
- ②開催日 2017年1月15日(日)
- ③開催場所 パルナソスホール
- ④主催 (公財)山陽特殊製鋼文化振興財団
姫路市教育委員会
- ⑤後援 神戸新聞社
- ⑥実施内容



児童・生徒の皆さんが、音楽活動を通して、豊かな人格形成の一助になることを願い、熱心に音楽活動を続けている市内の小・中学校に対し、本格的音楽ホールで発表の場を提供し、音楽活動を支援すべく、姫路市教育委員会と共催で開催した。

今回で第22回目を迎え、市内の小学校5校と中学校3校が合唱した他、吹奏楽で中学校2校が合同出演した。また、招待校として市川町立市川中学校が昨年に引き続き出演した。出場者数は約360名。

合唱演奏校は、「この歌を」、「Dream & Dream～夢をつなごう～」、「たからもの」、「YELL」、「少年時代」など、各校とも美しいハーモニーで2曲ずつ披露してくれた。

飾磨中部中学校と飾磨東中学校吹奏楽部は、飾磨小学校を卒業して以来、久しぶりに再会した男女63名による合同演奏で、D. キリングハムの「ウィズ・ハート・アンド・ヴォイス」を力強く演奏した。

招待校の市川町立市川中学校音楽総合部は童謡「赤とんぼ」と合唱組曲「鮎の歌」より「わさび田」をしっとり聞かせてくれた。

また、模範演奏として、多久潤子さんのピアノ伴奏で、バリトンの北村僚真さんによる「オペラ『フィガロの結婚』より もう飛ぶまいぞ、この喋々」、ソプラノの清野千草さんによる「オペラ『椿姫』より ああ、そはかの人か～花から花へ」の独唱と「オペラ『椿姫』より 乾杯の歌」の二重唱が披露された。

最後に、吹奏楽演奏をバックに、出場者と観客とで、東日本大震災からの復興を祈願する楽曲として歌われている「あすという日が」を全員合唱した。

★出演校 <合唱>

姫路市立網干・城北・菅生・津田・安室 各小学校

姫路市立朝日・広嶺・灘 各中学校

<吹奏楽>

姫路市立飾磨中部・飾磨東中学校

★招待校 <合唱>

市川町立市川中学校

★模範演奏 <若手声楽家の独唱・二重唱>

ソプラノ 清野 千草さん

バリトン 北村 僚真さん

2. スポーツ活動の推進及び援助に関する事業

◇◆ 実業団陸上競技部による陸上教室の主催 ◇◆

①運営費用 685 千円

②開催日 2017 年 3 月 28 日 (火)

③開催場所 NicoPA 姫路みなとドーム

④主催 (公財) 山陽特殊製鋼文化振興財団

⑤共催 姫路市

⑥後援 神戸新聞社

⑦実施内容

姫路市内の小学校 4 年生から中学校 3 年生を対象とする「実業団陸上選手による一日陸上教室」を開催し、参加者の健康増進と競技力向上に貢献することで、地域スポーツの振興を図ることを目的とするもので、今回は第 1 回目の開催となり、小学生男女 68 名、中学生男女 5 名の計 73 名が参加した。

教室では、山陽特殊製鋼陸上競技部の監督・選手による走り方の指導や、参加した子どもたち全員と陸上競技部選手が 7 チームに分かれて競うミニ駅伝大会を行い、子どもたちの懸命な走りで会場は大いに盛り上がった。



3. 文化の普及及び啓発に関する事業

◇◆ 市内小学校へ図書への寄贈 ◇◆

①寄贈内容 461 冊 763 千円

(目録代含む)

②寄贈先 23 校 (別紙ご参照)

③寄贈時期 2016 年 10 月



④実施内容

子どもたちが本を通じて多くの知識を吸収し、豊かな人間性を身に付け、将来の人間形成の礎となる場を提供すべく、子どもたちにとっての一番身近な図書館である学校図書館の一層の活性化に向け、姫路市内の小学校に希望図書を寄贈するもので、寄贈校 23 校を代表し、当財団理事長から、2016 年度の小学校校長会会長校の城陽小・原田校長に対し、11/28（月）に寄贈図書の目録贈呈を行った。

⑤閲覧状況 寄贈図書活用状況報告書（別紙ご参照）

◇◆ 文化講演会の主催 ◇◆

- ①運営費用 1,623 千円
- ②開催時期 2016 年 5 月 26 日（木）
- ③開催場所 姫路市文化センター大ホール



④開催内容

◎演題

『戦後 70 年、「日本再生」の最大の好機』

◎講師 櫻井よしこ 氏

（ジャーナリスト、公益財団法人国家基本問題研究所理事長）

⑤実施内容

今回で第 25 回目を迎え、ジャーナリストで公益財団法人国家基本問題研究所理事長の櫻井よしこ氏を講師に迎え、『戦後 70 年、「日本再生」の最大の好機』の講演に、1,500 名近くの聴講者が最後まで熱心に耳を傾けた。

講演の中で、櫻井氏は、テーマについて「日本最大の危機でもある」と指摘。「危機をどうやってチャンスにするかが問われている」とし、膨張する中国の脅威や核軍縮などをめぐる国際政治の実態などを示しながら、世界各国が国際法の確立・順守に向けた取り組みを強化していかななくてはならないと述べた。

また、開幕した伊勢志摩サミットに関して「（安倍晋三首相に）21 世紀のリーダーとしての気概を示してほしい」と注文した。

さらに日本の歴史を振り返り、「日本ほど穏やかな文明を築いてきた国はほかにない。一人一人の国民を大事にしてきた」とし、「自信を持って私たちの価値観を 21 世紀のひとつのモデルにしましょう」と呼び掛けた。

2016 年度事業報告の附属明細書

2016 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しない。